

# Ⅱ

# 世界史

問題は、次のページから始まり、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳの4題ある。

解答は、問題ごとに与えられた指示にしたがって、それぞれ答案紙の所定の欄に書きなさい。

## 世界史 問題 I

次の文章を読み、下記の問題に答えなさい。

シバ(シェバ)の女王の物語は長きにわたって人々の心を惹き付けてきた。初出は『旧約聖書』である。イスラエルのソロモン王の名声を聞き、シバの国からソロモン王に会いに行った。彼女は難問を浴びせてソロモン王の知恵を試したが、王の聡明さとその富を目の当たりにして、打ちのめされながらもそれを認めた。そして王の神であるヤハウエを讃え、王に大量の金、香料、宝石を贈って帰国した。この前後の記述と比べると、シバの女王の自主性・独立性は際立っているが、それは、異民族・異教徒のヤハウエへの自発的帰依を強調したためであろう。

シバの女王が実在したか否かは不明である。しかし『旧約聖書』の舞台となる地域にはシバの女王の物語が生まれ、育まれる土壌があった。大国支配に抵抗する古代の女王が何人もいたのである。アラブ人の間では女性が王位につくことは珍しくなく、女王サムシは紀元前8世紀にアッシリア王国へ忠誠を誓うのをやめたため、襲撃を受けて捕らえられた。碑文からは、さらに四人のアラブ人女王がアッシリア王国に抵抗して敗れたことが解る。紀元前1世紀にはクレオパトラがエジプトの独立を守るためにローマと戦い王朝と運命を共にした。3世紀シリアのゼノビアは、自らをクレオパトラになぞらえていたと言う。ローマ帝国の弱体化に乗じて女王を名乗り、ローマ東部属州をササン朝ペルシアから守るためと称してエジプト・小アジアなどを併合したが、272年にローマ帝国に大敗し、首都パルミラを破壊された。

シバの女王は、『旧約聖書』以降、これまでに少なくとも四度脚光を浴びた。

最初は紀元1世紀である。『新約聖書』のマタイおよびルカの福音書は、最後の審判のときにシバの女王が裁きを下すとのキリストの言葉を記す。さらに同世紀ユダヤ人歴史家がギリシア語の著書『ユダヤ古代史』のなかでシバの女王に触れ、エジプトとエチオピアの女王であったと書いた。ローマ帝国の下で、ユダヤ人以外へキリスト教を布教する際に、シバの女王は異民族・異教徒の自発的帰依の手本だったのである。

二度目は7・8世紀ごろである。シバの女王はコーラン(クルアーン)の中に登場する。女王はソロモン王の命令に逆らえずに彼に会いに行くが、ソロモン王と渡り合う

知恵にたけた女王として描かれる。女王はソロモン王に会って自分に足りないのはアッラーへの帰依だと悟り、アッラーに帰依して物語は終わる。『旧約聖書』に記されていない内容が多く、シバの女王伝説が聖書以外の形でも流布していたことがわかる。さらにウマイヤ朝のカリフの一人は、シバの女王の墓がパルミラで発見されたとの報せを受け、イスラーム式の再葬を望んだという。カリフはシバの女王とゼノビアを混同していたのかもしれない。くわえて、この時期のヨーロッパでシバの女王の地位が上昇した。『旧約聖書』詩篇の一句からシバの女王をキリストの神秘的な花嫁とする解釈が流布したのである。ウマイヤ朝は支配地域を急速に拡大し、ヨーロッパではゲルマン人へのキリスト教布教が課題であったために、改宗した異民族の象徴であるシバの女王が重要視されたのかもしれない。<sup>④</sup>

三度目は12～13世紀である。12世紀のエジプトの作家が、それまでで最長の華麗なシバの女王の物語をつくりあげた。物語の展開はコーランと同じであるが、女王は、邪悪な男王の首を計略によって切り落とし王位を篡奪した勇猛な女性として描かれ、ソロモン王と結婚して男子をもうけて帰国する。その後、13世紀末のジェノヴァの司教は、シバの女王がソロモン王の宮廷内に架かる木の橋を見て、その木がキリストの十字架となることを予言しソロモン王を驚愕させた、とする物語を書いた。さらに、パリ大学教授で神学を体系化した ⑤ (1225頃-1274)が臨終のときにシバの女王の幻とともに喜びに包まれて息を引き取った、と伝える書がある。

エジプトの作家、ジェノヴァの司教、そして ⑤ の取り合わせは、次のような背景を反映していると思われる。11～12世紀に遠隔地交易が盛んとなり、ヴェネツィア、ジェノヴァ、ピサなどはイスラーム圏より香辛料・絹織物などを輸入したが、カイロは、12世紀にイスラーム圏における貿易と文化の最大の中心地になりつ<sup>⑥</sup>つあった。ヨーロッパでは11～13世紀にイスラーム圏からもたらされた文献や錬金術などが刺激となって学問や文芸が発展したが、シバの女王は錬金術の女王と見なされていた。ヨーロッパのキリスト教は錬金術を禁止していたが、いくつかの修道院は隠れて行っていた。これは修道院の起源が小アジアにあること、13世紀までのヨー<sup>⑦</sup>ロッパで修道院が医薬技術などの普及拠点のひとつであったことと関係があるろう。また、中世ヨーロッパでは、マリア信仰をはじめとして女性聖人の地位が高かった。さらにシバの女王は、『旧約聖書』雅歌の「わたしは黒いけれども愛らしい」という一節を

根拠にしばしば黒い肌の持ち主として描かれていた。

これに対して 15 世紀以降のヨーロッパにおけるシバの女王のイメージは、徐々に近代の暗黒面を示すようになった。宗教改革以降、女性聖人の地位は後退した。19～20 世紀にはシバの女王は聖性をはぎとられて、絵画・映画・小説・サーカスなどの中で東方的エロティシズムの一事例として描かれた。この時期に進んだ人種の序列化<sup>⑧</sup>、男女の序列化を反映している。

しかしシバの女王は、1960 年の「アフリカの年」から間もなく、アフリカ系の人々の尊厳として復活した。四度目の脚光と言えよう。エチオピアは聖書に記述があるえ独立を維持したため、アフリカ系の人々にとって特別な国だった。この国には、シバの女王はエチオピア出身でソロモン王との間に生まれた子がエチオピア初代皇帝であり、血統は 20 世紀まで続いた、との言い伝えがある。このエチオピア皇帝が、世界に流浪するアフリカ系の人々を救済する黒いメシアだと信じ、皇帝を崇拜するラスタファリ運動が 1930 年ころのジャマイカで発生した。1966 年に皇帝がジャマイカに立ち寄ると熱狂的な歓迎を受けたという。その後 1974 年にエチオピアで社会主義革命が起き、皇帝は殺害されたが、運動はむしろその直後から 1980 年代前半に広がりを持った。ラスタファリ運動はジャマイカ発祥のレゲエ音楽とともに、アメリカ、イギリス、カナダに拡大したのである。アメリカでの広がりは、公民権法成立後も変わらぬ差別への不満が表明されていたのかもしれない。<sup>⑩</sup>また五月危機前年の 1967 年にフランスでチュニジア出身の青年が作詞・作曲したシャンソン「シバ(サバ)の女王」が、名曲として世界的ヒットとなったが、薮勇三は著書『シェバの女王』のなかで、北アフリカ出身のフランス人男性(白人)にはシバの女王に思い入れの強い傾向があると述べている。シバの女王は、肌の色や民族・出身地による差別のない世界、2015 年以降の表現で言えば「持続可能な開発目標 10」のターゲット 2 への希望を託されてきたと言えよう。

問 1 下線部①について。

- a) 下線部①の次に全オリエントを統一した国の王朝名を答えなさい。
- b) 下線部①と問 1 a) がともに整備した、広大な領土を支配するための交通制度を答えなさい。

問 2 下線部②について。

下線部②は、ペルシアで成立した宗教の影響を受けたと言われるが、その後ササン朝ペルシアで成立し、ヨーロッパにおけるキリスト教にも影響を与えた宗教の名前を答えなさい。

問 3 下線部③について。

下線部③に基づいて西アジアで発達した学問・文学が主に使用したペルシア語以外の言語を答えなさい。

問 4 下線部④について。

下線部④の処遇について、ウマイヤ朝とアッバース朝の主な違いを書きなさい。

問 5  について。

に入る人名を答えなさい。

問 6 下線部⑥について。

- a) 下線部⑥以前、かつイスラーム化以降の西アジアにおいて、政治・貿易・文化における最大の中心であり、特に 8 世紀後半から 9 世紀に栄えた都市の名前を答えなさい。
- b) 西アフリカで 13 世紀に成立し、支配層がイスラーム教を奉じていた国の名前を答えなさい。

問 7 下線部⑦について。

11～12世紀のヨーロッパの農業は以下のどの状態にあったか、記号で答えなさい。

- ア) ペストなどによって生産が減少していた。
- イ) 繁栄する都市に多くの農民が流出し、生産は伸びなかった。
- ウ) 農業技術の進歩などによって生産は拡大していた。

問 8 下線部⑧について。

下線部⑧の中で、フランス革命期に奴隷解放を宣言して1804年に黒人国家として独立し、イギリスやアメリカの外交政策に影響を与えた国の名前を答えなさい。

問 9 下線部⑨について。

20世紀初めのアフリカには西欧の政治支配を受けない国が2つあった。

- a) エチオピア以外の、もうひとつの国の名前を答えなさい。
- b) エチオピアと問9 a)の2つの国の成り立ちについて相違点を書きなさい。

問10 下線部⑩について。

- a) 下線部⑩を成果とした公民権運動の高揚は、当時のアフリカ大陸の広い地域における政治的状況を背景としていると言われる。問題文から導き出されるこの政治的状況を答えなさい。
- b) 下線部⑩が成立した同年に、南アフリカで黒人差別反対運動の先頭に立っていたために国家反逆罪で終身刑の判決を受けたが、30年後に同国における黒人初の大統領となった人物の名前を答えなさい。

## 世界史 問題Ⅱ

次の文章は、1901年に『清議報』という横浜で創刊された中国語雑誌に掲載された文章の一部を日本語に訳したものである。よく読んで下記の問題に答えなさい。

この部分につきましては、  
著作権の関係により公開いたしません。

# この部分につきましては、 著作権の関係により公開いたしません。

(村田雄二郎責任編集『(新編 原典中国近代思想史 第3巻)民族と国家—辛亥革命—』  
岩波書店, 2010年所収, 一部改)

(注)「叙論」は「序論」と同じ。前書き, イントロダクションのこと。

問 1 下線部①は, 清朝末期から中華民国の時代に活躍した知識人・梁啓超(1873—1929)のペンネームである。

(1) 梁は, この文章を執筆する数年前, 彼の師とともに光緒帝を説得し, 日本の明治維新にならった改革運動を推し進めた。この改革運動を推し進めた彼の師とは誰か。また, 彼らが推し進めた改革運動を何というか。

(2) この改革運動は保守派のクーデターによって失敗したが, 梁啓超は日本へと亡命し, 言論活動を続けた。このうち, 日本を一つの舞台として, 中国の政治運動が展開したが, それはどのように展開したか。「義和団事件」, 「科挙」, 「留学生」, 「中国同盟会」, 「孫文」の五つの語句をすべて用いて, 説明しなさい。(語句の順序は変えてよい)

問 2 下線部②について, 厳密な史料批判に基づき, 歴史を因果関係から説明する近代的な歴史学の基礎を築いて, 日本や中国の歴史学にも大きな影響を及ぼしたドイツの歴史家は誰か。

問 3 下線部③について, 個人や一族の伝記を中心とした中国における伝統的な歴史書のスタイルを紀伝体という。この名称はそれを用いた最初の歴史書である司馬遷『史記』が「本紀」と「列伝」を中心としていたことに由来する。この「本紀」にはどのようなことが記されているか。



問 4 下線部④について、この当時、中国にも「国民」という概念がヨーロッパから伝わり、これ以降、「国民国家」の形成が中国でも目指されることとなった。こうしたヨーロッパに由来する「国民国家」の理念とは、どのようなものであるか。簡潔に説明しなさい。

問 5 下線部⑤は、「正史」と称される 24 種の紀伝体の歴史書を指す。司馬遷『史記』に始まるこれらの歴史書は、『史記』を除いて、「断代史」と称される王朝ごとに編まれた歴史書であった。この最初の断代史で、漢一代の歴史を記した正史を何とよぶか。また、それは誰が編纂したか。

問 6 下線部⑥は、中国における代表的な歴史書の略称であるが、この歴史書の名称は何とよぶか、誰が編纂したか。また、この書が用いた紀伝体に対比されるスタイルを何とよぶか。

問 7 下線部⑦について、こうした時代区分は、この当時、中国の歴史書で用いられるようになった新しいスタイルである。これ以降、さまざまな時代区分が現れた。

(1) 貴族の勢力が強まった魏晋南北朝から唐代までを中国史上の中世とみなすことがあるが、この貴族の時代を支えた、魏の時代にはじまる官吏登用制度を何とよぶか。

(2) 列強による中国の半植民地化と清朝による専制的な統治に反対する民衆運動が発生する契機になったとして、アヘン戦争を中国史上の近代の始まりとみなすことがあるが、この戦争によって中国はイギリスにどこを割譲したか。また、その返還を求めて、イギリスと交渉を行った中華人民共和国の指導者は誰か。

問 8 下線部⑧について、梁啓超がこの文章で提起する「中国史」とは、これまでの中国には存在しない新しい歴史であった。それはどのような歴史であると考えられるか。梁啓超の文章に基づいて、簡潔にまとめなさい。

## 世界史 問題Ⅲ

次のA～Eの文章は、16世紀～18世紀のヨーロッパの歴史にかかわる史料の抜粋である。よく読んで下記の問題に答えなさい。

この部分につきましては、  
著作権の関係により公開いたしません。

# この部分につきましては、 著作権の関係により公開いたしません。

(歴史学研究会編『世界史史料』第5巻・第6巻所収，一部改)

問 1 A～Eの史料は，それぞれ次の1～5のどれに当たるか，番号で答えなさい。

- 1 フリードリヒ2世の政治遺訓
- 2 フェリペ2世からカトリーヌ・ド・メディシスへの書簡
- 3 エラスムス『愚神礼賛』
- 4 トマス・モア『ユートピア』
- 5 ジョン・ロック『統治二論』

問 2 A～Eの史料を年代順に並べたとき，次の( ① )～( ④ )に入る史料は何か，答えなさい。

A⇒( ① )⇒( ② )⇒( ③ )⇒( ④ )

問 3 史料Aの下線部は教皇ユリウス2世を指しているとされる。この教皇の依頼でシステイナ礼拝堂に天井画「天地創造」を描いた人物は誰か，答えなさい。

問 4 史料Bに関連して，啓蒙専制主義について簡潔に説明しなさい。

問 5 史料Cの著者は，迫害を恐れて一時，亡命し，名誉革命勃発の翌年に帰国した。この名誉革命で即位した君主2名の名を答えなさい。

問 6 史料Dの下線部はサンバルテルミの虐殺を指す。この事件について簡潔に説明しなさい。

問 7 史料Eの文章が批判している動きを何と呼ぶか，答えなさい。

## 世界史 問題Ⅳ

1980年代は、社会主義諸国で、民主化をめざす動きや市場制度の導入によって、その体制が揺らぎ始めた時期である。その後いくつかの社会主義国では、実際に国家体制が大きく変わった。どのような変化があったのか、以下の語句をすべて用いて350字以内で書きなさい。(語句の順序は変えてよい)

ベルリンの壁

「連帯」

ソ連邦

チャウシェスク

天安門広場